

令和 5 年 10 月 26 日

2023 年 北海道レフェリーアカデミー第 7 回 事業報告

報告者：岩本駿士（札幌地区）

【日時】 2023 年 10 月 7 日（土）・10 月 8 日（日）

【場所】 岩見沢岡山スポーツフィールド多目的広場
岩見沢市生涯学習センター いわなび

【参加者】 審判員：高須賀哲平 丑屋幸大 及川凌夢 岩本駿士
インストラクター：古曾部統太郎 氏（RAM） 今川一輔 氏（RAI）
岡田渉 氏（RAI）
オブザーバー：一瀬哲平 氏 山口麗弥 氏（RAC3 期生）

【テーマ】 まずは、判定基準

10 月 7 日（土）

9：15 集合 岩見沢岡山スポーツフィールド多目的広場

11：00 審判実技① 北海道サッカーリーグブロックリーグ決勝大会

ASC 北海道 vs アンフィニ VANKEI FC 主審：高須賀 副審 1：丑屋 INS：岡田氏

〈自己分析〉

選手の温度感、雰囲気、感情を感じ取り、どのように試合が進んでいくか考え、よいゲームを作っていかなければならないと思いました。マネージメントが効果的だったとはあまり言えず、選手のコントロールができないシーンがありました。前半 37 分に FK のクイックの保証ができておらず、またセットプレーの際に目を切ってしまうことがあるので隙を見せないようにしなければならなかったと感じました。

〈INS 分析〉

アカデミーでの初の 1 種の試合お疲れ様でした。アドバイスとしては大きく分けて二つです。まず一つはマネージメントについてです。効果的なマネージメントとはなにか？必要なマネージメントはなにか？二つ目は判断スピードと判断精度を上げることです。笛を吹くのか、アドバンテージするのか。マネージメントが必要な事なのか否か。警告をする為に必要な考慮点はなにか、「見極めて判断する」ようにしてみてください。

Canale 小樽 vs 新得 FC

主審：岩本 副審 1：及川 INS：今川 氏

〈自己分析〉

FK 小 no

FK の際、小樽の選手に前半から「離れてください」と伝えても中々離れなかったことや、GK の時間の使い方がよくなく、声でアプローチしたが、それが実際に効果的であったかと言われればそうではなかったように感じます。また、87 分の退場のシーンについては、小樽の選手が直前のヘディングの競り合いに勝つ可能性が高かったのがわかっているのであれば、外に幅を取りに行くのではなく内側から監視をすることで、より時系列をはっきりさせることができたと思いました。

〈INS 分析〉

試合開始から幅を持ったポジショニングを意識し、広い視野の確保に努めていました。なぜ警告なのか、なぜ退場なのかロジカル的に考える力を身に付けてほしいです。離れない競技者の声掛けをどう工夫しますか？ただ『離れて下さい』だけでいいのか。声だけではない工夫を次回以降試してほしい。

13:00 移動・昼食 岩見沢市生涯学習センター いわなび

14:00 試合振り返り

14:40 フィジカル講義

「Training plan ～オフシーズンに向けた Training plan の構築～」 担当：岡田氏

本講義では、なぜトレーニングに計画性が必要なのか、トレーニングプラン作成のポイントについて学びました。また直近2週間のトレーニング内容を洗い出し岡田氏からアドバイスを頂き、直近2週間のトレーニング内容については4名とも満足のいく内容ではなく、オフシーズンのみならず普段のトレーニングの重要性も改めて感じました。



15:30 先輩 RAC 講義

「今、アカデミー生に伝えたいこと」 一瀬哲平 氏

本講義では、RAC3 期生である一瀬氏の経験談から「自分自身と向き合う」ことの大切さについて学びました。特に、自分の夢を実現させるために「大目標（10年以上先の夢）」と「中目標（これからできそうなこと）」を立て、中目標は大目標を達成するための目標であり、大目標を達成するために中目標を大切にしていかなければならないと感じました。



16:10 諸連絡・解散

10月8日（日）

9:15 集合 岩見沢岡山スポーツフィールド多目的広場

11:00 審判実技② 北海道サッカーリーグブロックリーグ決勝大会

新得 FC vs ASC 北海道 主審：高須賀 副審1：及川 INS：今川氏

〈自己分析〉

警告の3枚はいずれも自信を持って判断できました。反則を適度に細かくとっていきながらタフと荒さを見極められました。しかし、担架使用時に搬出の完了を確認はしていたが、選手の交代の有無などは確認しておらず、交代の準備が完了していたがプレーを再開したため、選手の増減がある際はアンフ

エアを作り出さないようにゆっくりと確実に審判団を確認した後再開するよう心がける必要があると感じました。

〈INS 分析〉

判定基準も概ね安定していました。特に 70 分～73 分の新得 20 番、新得 10 番、ASC6 番の立て続けに起こったファウルの事象をしっかりと見極め、ゲームの温度を下げたレフェリングは評価に値します。しかし振り返り時のお伝えした通り、負傷者や退場者など競技者の数が減る場面では、一呼吸おき、主審として監視すべきこと、行すべきことなどしっかりと対応したいですね。

アンフィニ VANKEI.FC vs Canale 小樽 主審：丑屋 副審 1：岩本 INS：岡田氏

〈自己分析〉

判定基準は概ね一貫していたと思いますが、アドバンテージを考慮した結果笛を吹くタイミングが遅れてしまうことがありました。クイックの保障については、クイックで再開されうる展開をイメージできておらずうまく実行できなかったため、展開を整理し選手が主体であることを忘れずに今後に繋げたいと思います。

〈INS 分析〉

判定に影響はありませんでしたが、後半途中からの運動量の低下は少なからずあったと思います。クイックの保障についてですがどんな時にクイックリスタートがあるのかをもう一度考えてみてください。また、何を考慮して懲戒にするのか否か、何を判断してその判定に繋げたかなどといった分析力を向上させてください。

13：00 昼食・試合振り返り

14：10 諸連絡・解散

